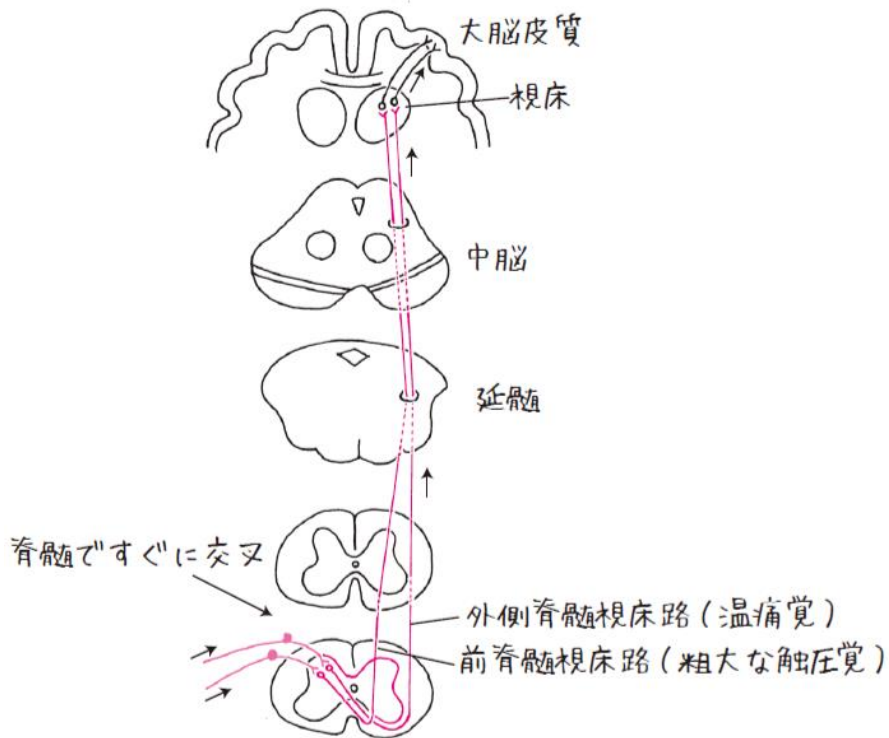


上行性伝導路

■伝導路には末梢から中枢に向かう（**上行性**）伝導路と、中枢から末梢に向かう（**下行性**）伝導路がある。

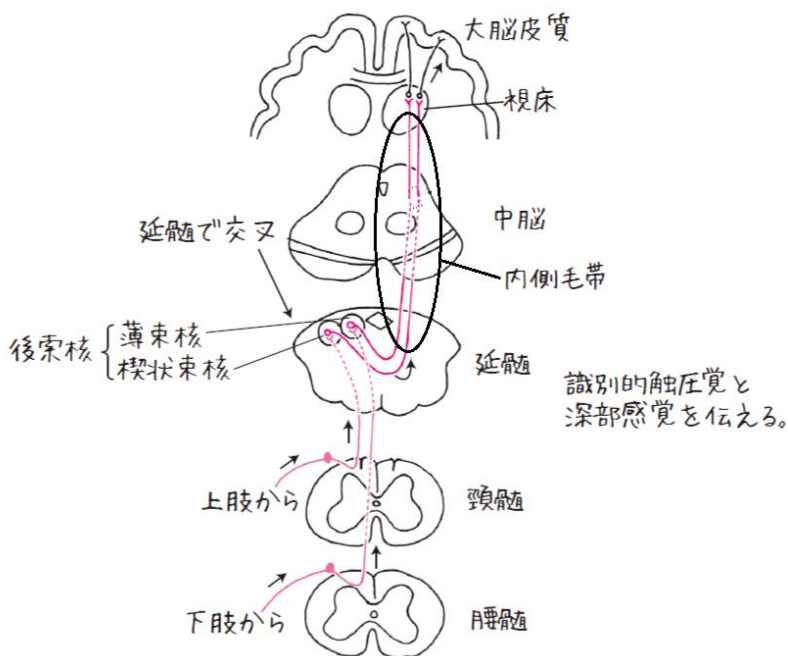
■上行性伝導路は、感覚受容器からの情報を中枢に伝える（**感覚性の**）伝導路であり、（**体性**）感覚と（**特殊**）感覚の伝導路がある。



■脊髄視床路は、受容器からの一次ニューロンが（**後根**）で二次ニューロンとシナプスを成し、脊髄の白交連を通して反対側の（**側索**）または（**前索**）を上行し（**視床**）に至る経路である。

■（**外側脊髄視床路**）は、温覚・痛覚を伝える経路であり脊髄の（**側索**）を上行する。

■（**前脊髄視床路**）は、粗大な触・圧覚を伝える経路であり脊髄の（**前索**）を上行する。



- 後索路は（ 深部感覚 ）、（ 識別的な触圧覚 ）を伝える経路であり、脊髄の（ 後索 ）を上行する。
- 後索路は、主に上肢と上半身からの神経線維である（ 楔状束 ）と、主に下肢と下半身からの神経線維である（ 薄束 ）からなる。
- 後索路は、（ 延髄下部 ）にある（ 後索核（楔状束核、薄束核） ）で二次ニューロンとシナプスを形成する。その後（ 交叉 ）して反対側の脳幹部で（ 内側毛帯 ）を形成し（ 視床 ）に至る。
- 脊髄小脳路は、筋紡錘やコルジ腱器管からの（ 意識しない深部感覚 ）を小脳に伝える経路である。
- 脊髄小脳路には、（ 前 ）脊髄小脳路と、（ 後 ）脊髄小脳路があるが、どちらも脊髄の（ 側索 ）を上行し、最終的に（ 同側の小脳 ）に至る。
- 前脊髄小脳路は（ 上小脳 ）脚を通して、後脊髄小脳路は（ 下小脳 ）脚を通して小脳に入る。
- 上肢と上半身からの伝導路は脊髄に入ってシナプスを形成することなくそのまま脊髄の後索を上行し延髄の副楔状束核に至り、そこでシナプスを形成し、二次ニューロンに交代し（ 副楔状束核小脳路 ）として（ 下小脳 ）脚を経て同側の小脳に至る。

下行性伝導路

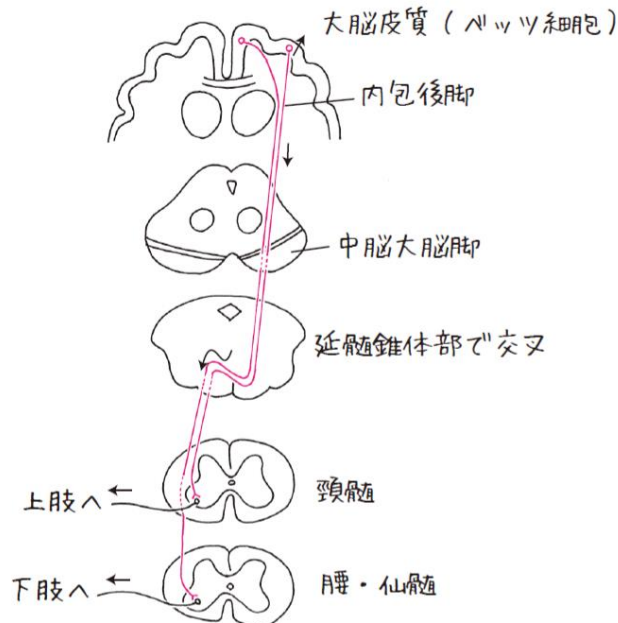
■下行性（運動性）伝導路には、（ 錐体路 ）と（ 錐体外路 ）がある。

■錐体路は、大脳皮質の運動野から脳幹の脳神経核へ連絡する（ 皮質核路（皮質延髄路） ）と、脊髄の前角細胞に連絡する（ 皮質脊髄路 ）がある。

■皮質核路（皮質延髄路）は、（ 大脳皮質運動野第V層のベッツ細胞 ）→（ 内包膝 ））、中脳の（ 大脳脚 ）→（ 脳神経運動核 ）へ至る伝導路である。

■皮質脊髄路には（ 外側皮質脊髄路 ）と（ 前皮質脊髄路 ）がある。

【外側皮質脊髄路】



■外側皮質脊髄路は、大脳皮質運動野第V層のベッツ細胞→（ 内包後脚 ）→中脳の（ 大脳脚 ）→橋の底部→延髄の（ 錐体部 ）で交叉し→脊髄の（ 側索 ）→（ 前角 ）細胞へと至る。

■皮質脊髄路のうち、延髄で交叉せず同側の前索を下行するものを（ 前皮質脊髄路 ）といい、脊髄の（ 前索 ）を通る。

■外側皮質脊髄路は主に（ 四肢の遠位 ）筋の運動にかかわる。

■前皮質脊髄路は主に（ 体幹 ）の運動にかかわる。

■錐体路が運動の（ 実行 ）系とすると、錐体外路は運動の（ 企画 ）、（ 調整 ）系である。

■赤核脊髓路は、（ 中脳の赤核 ）からおこり（ 屈筋 ）の運動ニューロンを興奮させ（ 伸筋 ）筋の運動ニューロンを抑制する働きがある。

■視蓋脊髓路は、（ 中脳の上丘 ）からおこり、頸筋の運動ニューロンに連絡し（ 視覚 ）反射にかかわる。

■前庭脊髓路は、（ 延髄 ）の前庭神経核からおこって（ 体の平衡 ）を保つ。

■網様体脊髓路は、（ 体幹 ）の筋を支配する運動ニューロンに連絡し（ 姿勢 ）の制御に働く。